

財団法人 骨髄移植推進財団 第 12 回 常任理事会議事録

日 時： 平成 22 年 5 月 19 日（水）17：30～18：30

場 所： 廣瀬第一ビル 2 階会議室

出席理事： 理事長： 正岡 徹

副理事長： 齋藤 英彦

常務理事： 平井 全

常任理事： 加藤 俊一、小寺 良尚、佐々木 利和、鈴木 利治、橋本 明子

欠席理事： 伊藤 雅治

陪 席 者： なし

事 務 局： 木村成雄(事務局長)、大久保英彦(広報渉外部長)、小瀧美加(移植調整部長)、
坂田薫代(ドナーコーディネーター部長)、松園正人、塚谷典子(以上総務部)

傍 聴 者： 1 名

〔議 事〕

1．常任理事会の成立の可否

常任理事会の会議開始時、構成員 9 名のうち 7 名が出席（欠席した伊藤副理事長は平井常務理事に委任）、本常任理事会の成立が確認された。なお、会議開始後 2 名が参加した。

2．議長選出

寄附行為第 33 条第 6 項の規程により、正岡徹理事長が議長となった。

3．議事録署名人の選出

議長から寄附行為第 33 条第 7 項で準用する第 31 条の規程による議事録作成のため、議事録署名人 2 名の選出が諮られ、全員異議なく佐々木常任理事、平井常務理事を選出した。

4．前回議事録確認

第 11 回常任理事会の議事録について確認し、全員異議なくこれを了承した。

5．審議・確認事項（敬称略）

（1）育児・介護休業法の改正に伴う就業規程及び育児休業等に関する規則の改正について

木村事務局長より、標題の審議事項について資料に基づき以下のような説明があった。

今般、育児・介護休業法が改正され、平成 22 年 6 月 30 日より施行されるため、これに合わせて「就業規程」及び「育児休業等に関する規則」の改正を実施したい。

まず、子育て期間中の労働に対する対応について。

3 歳までの子を養育する労働者に対して、勤務時間の短縮措置（1 日 6 時間）を制度化するとともに（制度化済み）労働者から請求があった場合、時間外労働及び深夜労働を免除する。（「育児休業等に関する規則」の改正）。

小学校就学前の児童が、1人であれば年5日(現行どおり)、2人以上であれば年10日を付与する。(「就業規程」の改正)

父母がともに育児休業を取得する場合、1歳2か月(現行は1歳)までの間に、それぞれ上限1年間の育児休業(母親は産後休業と合わせて1年間)を取得可能とする。(「育児休業等に関する規則」の改正)

出産後8週間以内に父親が育児休業を取得した場合、その後再度の育児休業の取得を可能とする。(「育児休業等に関する規則」の改正)

また、介護のための短期の休暇制度を創設することとし、要介護状態の対象家族が、1人であれば年5日、2人以上であれば年10日を付与する。(「就業規程」の改正)

以上の改正は、平成22年6月30日から施行する。

以上の説明のあと、本案は異議なく原案どおり了承された。

6. 報告事項等(敬称略)

(1) 22年度診療報酬改定に伴う患者負担額などの影響について

木村事務局長より、標題の報告事項について資料に基づき以下のような説明があった。

平成22年度の診療報酬改定による財団の再配分2,000点については、患者負担軽減積立金に充当し、財団が負担している各種検査料や、新規事業の末梢血幹細胞移植(以下、PBSC Tという)の導入によって生じる経費に充当することとして、通常理事会にて承認を受けた。

これを受けて、今後の計画について説明したい。

財団が患者負担金の検査料の中で肩代わりしているのは、ドナー本人確認検査費用の全額9,240円、および、ドナーのスクリーニング検査費用(8,736円)の一部の3,736円。

今年度以降の2,000点の診療報酬再配分による収入については、ドナーのスクリーニング検査費用の財団負担分である3,736円に充当すること、及び、の一部(111件分の費用)に充当することとする。

これにより、平成22年度以降の患者負担金の中の財団負担分はの一部のみとなる。

ただし、今年度よりPBSC Tを導入することで、確認検査時の検査費用が1件当たり320円値上げになること、コーディネーター、調整医師の活動量が増加するため調整活動費をそれぞれ1,000円値上げすることを考えており、財団の肩代わりは増額することとなる。

また、PBSC T導入後、移植件数は年々約10%増加していくと推測されるため、財団の肩代わりする金額も増額していくことになる。これにより、患者負担軽減積立基金は8年半後の平成30年度に枯渇する見込みとなる。

基金が枯渇した後は、診療報酬2,000点分を患者負担金の引き下げに充当して値下げすることとしたい。現在、移植に至った患者の平均的な患者負担金(ドナー4人の検査料を負担する場合)は18万9,000円だが、基金が枯渇した8年半後の同一条件での一人当たりの患者負担金は20万5,464円となり、約1万6,000円の値上げとなる。

また、移植に至らない患者の平均的な患者負担金は、現状の3万2,000円から約1万2,000

円値上げされ、4万4224円となる。

(主な意見等)

- 加藤 P B S C T導入によるコーディネーターと調整医師の活動費を1,000円値上げする必要はあるのか。時間や負担が増加するという根拠はあるのか。これまでの業務の延長でできるのではないか。
- 坂田 ドナーによって異なると思われるが、P B S C Tが追加されることにより、説明時間は骨髄の場合の1.5倍に増加する見込みである。とは言っても、時間の延長はドナーの負担を大きくするため、短時間に収めるよう努力したい。いずれにしても、説明内容は増えることになり、コーディネーターと調整医師の負担が増えるため、活動費を少しでも値上げすることで労をねぎらいたいと考える。
- 小寺 加藤理事と同じ意見である。金で換算できる問題ではないと思う。学会としては、2年後の診療報酬改定の際、院内コーディネーターの採用を要望として提出したい。抜本的な解決策にはならないかもしれないが、調整医師やコーディネーターの負担を軽減するという点においては、正しい解決策ではないかと考える。
- 平井 骨髄の場合のコーディネーターの活動費は5,700円である。P B S C Tの導入による負担を考えると、本来は3,000円から4,000円値上げしたいところだが、患者負担金を値上げせざるを得なくなる。これを回避するため、せめてもの気持ちとして1,000円値上げとさせていただいた。
- 小寺 骨髄バンクは財団だけが実施している事業ではない。施設も一緒に実施している事業である。金銭的な面ではなく、もっと根本的なところで配慮をするほうがいいのではないか。値上げについては、違和感を禁じえない。
- 橋本 現場の医師から報酬について声は挙がっているのか。
- 小寺 業務量が増えるため、見合った報酬にしてほしい、という声はある。ただし、1,000円値上げすることで解消されることではない。
- 加藤 今後は調整医師の負担は軽減させ、コーディネーターが主となってコーディネートを実施していくことを前提とすれば、コーディネーターのみ活動費を上げることでその意思表示ができるのではないか。
- 正岡 P B S C T導入後、コーディネートの実績を見た上で、活動費については検討したほうがいいと考える。

(2) 新規支援先の紹介

大久保広報渉外部長より、標題の報告事項について資料に基づき以下のような説明があった。

国内最高峰のモータースポーツイベント「SUPER GT」シリーズの「レクサスチームSARD」で活躍するドライバー、アンドレ・クート選手のご子息・アルフォンソ君が急性リンパ系白血病を発症し、骨髄バンクでドナーを探していることがきっかけとなり、SUPER GTシリーズの組織全体で骨髄バンクをご支援いただくことになった。

SUPER GTは、1994年に全日本GT選手権(JGTC)としてスタートし、2005年にSUPER GTと名称を変え、今年で16年目のシーズンを迎える。昨年度の観客動

員数は延べ約 45 万人で、日本を代表するモータースポーツとして位置づけられている。

去る 5 月 1 日（土）2 日（日）の 2 日間、富士スピードウェイにおいて骨髄バンクの普及啓発活動が実施された。

一定時間内観客がピット内に入場できる「ピットウォーク・キッズウォーク」では、ピット内に訪れた観客に骨髄バンクのパンフレットとシールを配布した。

このほか、オフィシャルステージでの骨髄バンクトークショーや、チャリティーオークションが開催された（15 万 9 千円を財団に寄付）。

献血併行型のドナー登録会では、献血受付 78 名、採血 62 名、ドナー登録者 33 名の実績となり、カート選手のチームのパートナーである、平手晃平選手がドナー登録を行った。

現在、オフィシャルホームページで特設サイトを設置している。

今後は、7 月 24 日、25 日に、「スポーツランド SUGO」、8 月 21 日、22 日に、「鈴鹿サーキット」等、イベントでの普及啓発活動が予定されている。

なお、アルフォンソ君のドナーがドイツの骨髄バンクで見つかり、5 月 20 日に骨髄移植が行われる予定。

また、福岡ソフトバンクホークスの杉内俊哉投手より、骨髄バンクを支援したいという申し出があった。杉内投手の知人が白血病になったことがきっかけで、支援内容を検討したところ、ご本人が制作費、発送費用等の全費用を負担した上で普及啓発のポスターを作成することとなった。3 月 15 日には、杉内投手自身が骨髄バンクへのドナー登録も行った。

ポスターは 6 月末に完成予定で、シーズンオフには、白血病の子供たちを励ますための施設訪問を行う予定。

さらに、飲料の自動販売機を通じて募金を行い、公益法人に寄附をする団体「ボランティア・ベンダー協会」より、支援の申し出があった。

参加飲料メーカーの自動販売機を通じて飲料を購入すると、飲料メーカー、自動販売機管理会社、設置先地主がそれぞれ 1 円ずつ、合計 3 円を募金する仕組み。寄附のとりまとめはボランティア・ベンダー協会が行い、設置先が指定する寄附先に、年 2 回寄付される。

主な支援先は、財団法人エイズ予防財団、特定非営利活動法人 国際連合世界食料計画 WFP 協会、メイク・ア・ウィッシュオブジャパン等、計 22 団体。

（主な意見等）

正岡 ボランティア・ベンダー協会について。支援先についての審査はあるのか。

大久保 特にない。協会と覚書を交わす予定である。

加藤 自動販売機に設置する骨髄バンクの案内を財団負担で作成する等の工夫をしたほうがよいのではないかと。

（3）コーディネーター養成研修会報告

坂田ドナーコーディネート部長より、標題の報告事項について資料に基づき以下のような説明があった。

コーディネート件数の増加や扶養控除範囲内での活動希望による活動件数の制限などにより、コーディネートの絶対数が不足している地域を対象に、本年 1 月からコーディネーター養成研修会を実施した。

4月16日に「コーディネーター委嘱審査会議」において審査を行い、東北地区1名、関東地区2名、中部地区4名、近畿地区10名、中四国地区2名、九州地区8名の計27名の認定・委嘱が決定した。4月30日には大阪で閉講式を開催し、研修の全過程を修了した研修生に認定証・委嘱状を授与した。実地研修が未修了の研修生については、全ての研修が修了した段階で認定証・委嘱状を授与し、順次、活動を開始する予定である。

今回、募集方法については、以下のように実施した。

財団関係では、バンクニュース、マンスリーJMDP、ホームページ、ドナーズネットを通じて告知を実施し、「チャンス」の請求者に対しても募集要項を同封（該当地区）した。

マスコミ等については、新聞（全国紙、地方紙）、エリア別フリーペーパー、テレビ、ラジオ等の媒体を通じて告知を行った。

また、該当地区の行政（広報紙、ホームページ）、ボランティア団体（ホームページ、会報）にもご協力いただいた。

特に、コーディネーターの不足している近畿地区、九州地区においては、有料広告（朝日新聞、読売新聞の近畿版、西日本新聞）を掲載した。

その結果、全国で469名の応募があり、30名がコーディネーター養成研修会を受講し、結果、認定委嘱者は27名となった。

特に、有料広告を掲載した近畿地区では230名、九州地区では95名の応募があった。

現在、全国で178名（ほか、13名が活動休止中）のコーディネーターが活動中である。

（主な意見等）

正岡 469名の応募者があったということは、かなり優秀な方が集まったのではないかと。

坂田 非常に優秀な人材が集まった。社会的な経済状況もあり、男性からの応募もあった。近畿地区は応募者多数のため、事前に面接試験を行った。近畿地区については、これまでコーディネーターが不在だった和歌山県もカバーすることができた。

（4）医事課向け冊子の改訂について

小瀧移植調整部長より、標題の報告事項について資料に基づき以下のような説明があった。

非血縁者間骨髄移植・採取にかかわる施設内での諸事務手続きについて、スムーズな手続き、かつ、患者さんからの問い合わせに対して十分に対応できるよう、当財団より「非血縁者間骨髄移植・採取における事務手続きに関する説明書（医事課の方へ）」を各認定施設へ配布している。

この度、診療報酬改訂ならびにP B S C T導入に当たり、診療報酬改訂の説明と財団への支払い額の変更について、P B S C Tにかかわる財団と施設との契約（合意書）について、骨髄、P B S Cの運搬について（業者への委託）以上の内容について改訂を行う予定である。

なお、P B S C Tに関する合意書ならびに運搬に関する事項の手続きが決定次第、差し替え作業を行う予定。

(主な意見等)

小寺 冊子のタイトルは「骨髄移植」に「P B S C T」を追加するのか。

それとも、まとめて「造血幹細胞移植」とするのか。

小瀧 検討することとしたい。

(5) 調整医師の新規申請・承認の報告

坂田ドナーコーディネーター部長より、標題の報告事項について資料に基づき以下のような説明があった。

平成22年4月7日～平成22年5月11日の期間で、15名の医師が新規に申請され承認された結果、調整医師総数は951名となった。

(6) 募金報告

大久保広報渉外部長より、標題の報告事項について、資料に基づき以下のような説明があった。

平成22年度の4月の募金実績は696件で、約876万9,000万円という結果になった。前年度同月と比較すると、件数にして638件減、金額にして約224万3,000円の減収となった。

前年度比で減収した要因は、ニコスのポイントカードプログラムの寄附金が来月に一部繰り越されたことと、東武動物公園の入場料寄附が今年度は取りやめになったことが考えられる。

(7) 「NPO法人血液情報広場・つばさ主催フォーラム」の共催について

橋本常任理事より、標題の報告事項について、資料に基づき以下のような説明があった。

私が理事長を務める「NPO法人血液情報広場・つばさ」主催の定例フォーラムが7月に大阪と東京で開催される予定である。この開催に当たり財団に共催をお願いしたい。

財団の事業について、より多くの患者さん達に理解して欲しい、という主旨から、財団のP B S C Tの導入等の新しい事業内容についてご説明いただきたい。

(主な意見等)

加藤 過去にこのフォーラムに協力させていただいたことがあり、財団が協力することについては賛成だが、共催でいいのか。

橋本 人的支援だけの共催も、ほかに例がある。

大久保 以前は患者相談の人的支援やチラシ制作費用の一部負担をしていた。

平井 財団がP B S C Tの説明を行うということは、後援ではなく、むしろ共催ではないかと考える。

加藤 財団が積極的に関与するというのであれば、共催でよろしいと思う。

7. 今後の予定

今後の日程について、以下のとおり開催することが確認・決定された。

「第 13 回常任理事会」 6月16日(水) 17:30～

「第 39 回通常理事会」 6月30日(水) 13:00～

「第 14 回常任理事会」 7月21日(水) 17:30～